

二〇一七年七月一四日(第一回)、一二月二三日(第二回)開催

「留学生と語る」オープンディスカッション

サウクエン・ファン

(執筆＝ミラー成三)

第1回 人生は選択の連続である——あなたならどんな

選択をしますか？

■ディスカッション協力……本学留学生別科「日本語

インタールアクション7」履修生…蔡慶霖、鍾佳好、

関齐(台湾)、潘卿賢、金鍾賢、曹瑜彬、裴ヘリム

(韓国)´DUONG THI NGOC´ NGUYEN THU

HANG´ VU NGOC HUYN´ NGUYEN THI

GIANG (ベトナム)

■司 会……サウクエン・ファン(本学国際コミュニ

ケーション学科教授、グローバル・コミュニケーション

ション研究所所長)

■コーディネーター……徳永あかね(本学留学生別科

准教授)

第2回 あなたにとって「成長」とは？——物事が簡単

なら私たちは成長しない。私たちは試練に立ち

向かうときに成長する

■ディスカッション協力……本学留学生別科「日本語

インタールアクション7」履修生…牛彦詠、陳曉彤、

陳子馨、邱冠慈、房立堯(台湾)、鄭多媛、許静湖

(韓国)´景子桐(中国)´CARVALHEIRO SAKA-

MOTO GABRIEL SEITI(ブラジル)

■司 会……サウクエン・ファン

■コーディネーター……徳永あかね

はじめに

今年度のオープンディスカッションでは普遍的なテーマを



司会のファン先生

取り上げ、本学の学部生と交換留学生とがディスカッションを行った。多様な背景をもつ学生たちが、普段はあまり触れることのない「人生」について語り合うことによって、異文化理解を深め、自分自身の幅を広げられる機会とした。

オープンディスカッションは、(1)留学生によるブックトーク、(2)留学生と学部生とのグループディスカッション、(3)全体のまとめの三つの構成で実施された。(1)のブックトークでは、留学生がそれぞれ日本の小説を選び、あらすじや作品のメッセージ、感想などをポスターにまとめて発表した。(2)の

グループディスカッションでは、留学生と学部生とがグループになり、各グループで設定したテーマについて、自分の意見や考えを話し合った。そして最後に、(3)全体のまとめとして、参加者全員が集まり、各グループで話し合った内容を発表し、互いに共有することでテーマについての理解を深めた。

オープンディスカッションでは、留学生と学部生のほかに、ファシリテーターの学生も参加し、当日の活動が円滑に進行するよう調整する役割を担った。使用言語は、ブックトークでは留学生が日本語で発表した。ディスカッションは言語を設定せず、状況に応じて言語を自由に選択することとした。

第1回のディスカッションでは、本学留学生別科「日本語インターアクション7」クラスの交換留学生一人と学部生および一般参加者七人、第2回ディスカッションでは、同クラスの交換留学生九人と学部生・一般参加者六八人が参加し、いずれも自らの背景や経験にもとづいた活発な意見交換が行われた。

第1回 人生は選択の連続である

——あなたならどんな選択をしますか？

前期に開催したオープンディスカッションでは、「選択」を大きなテーマとした。「選ぶ」という行為は、誰もが日常生活

で毎日行っているものであるが、大学生にとっては、留学するかどうか、またどのような会社に就職するかなど、人生の分岐点となる「選択」もある。今回のオープンディスカッションではこの「選択」について、留学生のブックトークとディスカッションから考えを深めることとした。

ブックトーク

最初のブックトークでは、留学生一一名がそれぞれ次のような日本の小説を選び、ポスター発表を行った。

- 『イニシエーション・ラブ』 乾 くるみ 著
- 『その手をにぎりたい』 柚木 麻子 著
- 『陽だまりの彼女』 越谷 オサム 著
- 『贖罪』 湊 かなえ 著
- 『ツナグ』 辻村 深月 著
- 『ノルウェイの森』 村上 春樹 著
- 『過ぎ去りし王国の城』 宮部 みゆき 著
- 『夜は短し歩けよ乙女』 森見 登美彦 著
- 『コンビニ人間』 村田 紗耶香 著
- 『君の隣をたべたい』 住野 よる 著
- 『私をくいとめて』 綿矢 りさ 著



留学生によるポスター発表（ブックトーク）①

ポスター発表は、留学生が一、二名ずつに分かれ、合わせて六グループを作り、グループごとに実施された。学部生は、留学生の発表を時折うなずきながら聞いていた。発表後は学部生も交え、小説の感想や考えたことについて自由に語り合った。

グループディスカッション・全体のまとめ

ブックトークの後はグループディスカッションが行われた。各グループで、あらかじめ設定されたグループのテーマを中



留学生によるポスター発表（ブックトーク）②

心に話し合いが進められた。グループのテーマは、全体のテーマである「選択」について、留学生が自分の経験などをもとに考えたものである。

- グループ1…なぜ人は好きな気持ちがあるのに、その気持ち
 ちをすぐ口にしらないのだろうか——好きな気
 持ちって？ 彼氏彼女の好きな基準って？
- グループ2…あなたはどんな生き方を選びますか？
- グループ3…あなたの人生において、友人はどのような役

割を持っていますか？

グループ4…先が見えない時、どうしますか？

グループ5…もしあなたが悩みを抱えていたら、どのような行動をとりますか？

グループ6…人生の生き方で、だれか影響を与える人に出会ったことがありますか——誰に出会い、どのように変わりましたか？

グループディスカッションは、留学生とファシリテーターの学生が中心となって進行し、テーマについて自分の経験を語ったり、意見交換を行った。グループディスカッションの後、全体のまとめが行われた。各グループのファシリテーターが代表して、グループで話し合った内容をまとめて報告し、全体で共有した。

〈グループ1〉

グループ1では主に恋愛感情をめぐる三つの話題についてディスカッションが行われた。

まず、「好きな気持ちとは何なのか」について話し合われた。「好きな気持ちとは、ある人を想った瞬間や、一緒にいてほしいと思った時、信頼関係が築かれていると感じる時などを指すことが一般的」だという。しかしそれに加え、「一目惚

れなど瞬間的に感じることもある」「好きな気持ちが作用してより頑張れる場合もあり、思っているよりも広い範囲の気持ちを指すのではないか」という意見が出された。

続いて、「彼氏彼女の好きな基準」についての話題に移った。話し合いによると、「彼氏彼女というのは特別な関係であり、そのため二人の時間が欲しいと感じられるような相手であるかが一つの基準になる」という。さらに、「誰かを好きになると、その人にとっても会いたいという気持ちが顕著になるのではないか」という指摘もあった。また、「周りの人に認められることで好きという気持ちが増幅されていくこともあり、そのような場合に自分の彼氏彼女が好きだと言えるのではないか」という意見も出された。

最後に、「なぜ好きという気持ちを口にできないのか」について取り上げられた。一つの理由として、「相手との関係を壊したくないという気持ちがあり、もし告白をしたら今までの関係性ではなくなってしまうのを恐れている」ことが挙げられた。また、「その気持ちを口に出すのは、相手に彼氏／彼女がないことがあらかじめわかっていたり、自分が相手にとって気になっている存在であることを知っているなど、自信を持てる状態でなければ難しい」という考えも出された。さらに、「好きという気持ちを言葉に表さなくても、積極的に話しかけに行くなど態度で示せばいいのでは」という意見や、

「逆に好きという気持ちがあるから他のことも頑張れるのであって口にしないこともあるのでは」などの意見も提示された。

〈グループ2〉

グループ2では、主に二つの話題を中心にディスカッションが行われた。

まずグループのテーマに関連して、「もし生まれ変わることができたら、今の記憶を残したまま生まれ変わりたいか、または、全く違う人間、もしくは人間でないものに生まれ変わりたいか」について話し合われた。その結果、日本人学生の多くは「今の自分に満足している」と言い、「生まれ変わりたいというよりも、今の人生を全うしたい」と考えている学生が多く見られた。留学生からは、「なぜ日本人はこんなに現実的なのか」という疑問が投げかけられたが、それに対し、「日本は世界的に見ても発展している国で恵まれているが、東南アジアや中東の国は自分の命が危険にさらされる可能性が高い場合がある。日本は比較的安全で危険を知らないまま生活できるため今の自分に満足しているのではないか」という回答があった。一方、「嫌なことがたくさんあったときに飛んで忘れたい」という理由から、留学生からは「生まれ変わったら鳥になりたい」という希望が出された。これは日本人学生とはとても対照的で、参加した学生は大きな衝撃を受けて

いた。ディスカッションではさらに、このような意見の違いも文化的な差異として考えられるのかもしれないという方向に議論が発展していった。

次に、グループメンバーに留学経験のある学生が多かったことから、「留学生はなぜ日本に来たのか」、「日本人学生はなぜ海外に留学に行ったのか」、また「なぜその選択をしたのか」について話し合いが行われた。留学生の場合は、日本語を勉強して将来日本語を使用する職に就くことを希望している人と、とりあえず日本に留学して日本語を勉強してみようと考えている人とに分かれた。一方、日本人学生の場合は、長期留学を経験した人と短期留学を経験した人とに分かれた。留学のきっかけは、「せっかく外語大学に入学したから」という共通したものだだったが、帰国後の選択は学生によって異なることが明らかになった。

〈グループ3〉

グループ3では、「人生において友人はどんな役割を持っているか」というテーマに沿って、「友人が自分にどのような影響を与えているか」について意見が交わされた。そこでは、「友人は人生において必要不可欠な存在で、友人がいると元氣になったり、一人ではないという感覚が持てる」、「モチベーションにつながる」、「言いたいことが言える」、「自分を変えて

くれる」、「支えになってくれる」、「同じ考えを共有できる」などの役割が挙げられた。特に「友人と親は、どちらもアドバイスをくれる存在だが、親には反発をしてしまう反面、友人のアドバイスは素直に聞くことができる」という意見には多く参加者が共感していた。そしてこれらを通して、「友人は自分の支えとなってくくれる存在である」という気づきも見られた。

〈グループ4〉

グループ4もグループのテーマ「先が見えない時にどうするか」を中心に議論が進められた。グループの学生たちからは、「先が見えないときでも希望を持っていれば常に前向きでいられる」、「先が見えなくてもチャンスがそこにあるのならば頑張りたい」、「やりたいことがあるということが、先が見えない不安を和らげて前進していく原動力になる」などの意見が挙げられた。そのほかにも、「自分が悩んでいるときに、友達や家族に相談することでそれが支えになり、より頑張ろうという気持ちにさせてくれる」という話もあった。また、「お互いが留学や就職活動に関する体験をシェアすることで刺激を受け、自分たちのやる気につながる」という意見も出された。

〈グループ5〉

グループ5では、「もし悩みを抱えていたらどのような行動をとるか」についてディスカッションが行われた。多くの学生は「現在、大きな悩みはない」としながらも、悩んだときの行動として、主に三つ挙げた。それは、「自分にご褒美を設定して前向きに頑張ること」、「どうか自分で解決すること」、「誰かにアドバイスをもらい、それに従って行動してみる」とである。さらに、三つ目の「アドバイス」から議論が発展し、「誰かに相談をしたり、相手から相談を受けたりすることで、何か影響を受けたり、与えたりしたことはあるか」という問いが提示され、意見が交換された。そこでは、「自分の経験を後輩などに伝えることによって、人の役に立つという喜びを感じたり、逆にアドバイスを受けることによって挑戦する勇気ももらった」という体験が語られた。そしてこれらを通して、「決断をする際に周りの人に相談することがいかに重要か」という気づきがあったことが示された。

〈グループ6〉

グループ6では、「人と出会って影響を受けた経験」についてディスカッションが行われた。「大学生活が始まり、サークル仲間の考え方や生き方から影響を受けた」、また「自己PRをする時に、『他人から見た自分の姿』と『自分から見た自分

の姿』が異なっていた場合、ポジティブな部分は他人から見た自分像に近づけるように努力してきた」という経験、さらに、「自分の視野の狭さを他人からの言葉で気づかされた」経験などが語られた。これらをもとに、さらに話が深められ、「日々の生活における選択の中で、出会う人や社会、国や文化からどのような刺激を受け、未来をどのように生きたいか、変わっていきけるかということを考えていくことが重要だ」という気づきがあったことも報告された。



グループディスカッションの様子



ファシリテーターの学生によるまとめの報告

第2回 あなたにとって「成長」とは？

—— 物が簡単なら私たちは成長しない。

私たちは試練に立ち向かうときに成長する

後期は「成長」を大きなテーマに掲げてオープンディスカッションを開催した。人生はすべてが順調に進むわけではない。大学生の場合も、人間関係や大学の勉強など、なかなか思いどおりに進まず、困難に直面することもあつたろう。しかし、

このような試練に立ち向かう時こそが成長の大きなチャンスとなる。今回のオープンディスカッションでは、「成長」について、留学生のブックトークとディスカッションを通して深く考えていくこととした。

ブックトーク

ブックトークでは、留学生九名が五グループに分かれ、自分が読んできた日本の小説についてポスター発表を行った。

『告白』 湊 かなえ 著

『君の隣臓をたべたい』 住野 よる 著

『Burn. バーン』 加藤 シゲアキ 著

『あなたを感じる』 物部 深雪 著

『白夜行』 東野 圭吾 著

『天平の甕』 井上 靖 著

『プラチナデータ』 東野 圭吾 著

『マドンナ』 奥田 英朗 著

『旅のラゴス』 筒井 康隆 著

発表では、留学生が小説のあらすじや考えたことなどが語られ、学部生は熱心に耳を傾けていた。その後の質疑応答でも、留学生と学部生がお互いに質問を投げかけながら、活発

に意見を出し合った。

グループディスカッション・全体のまとめ

グループディスカッションは、各グループのテーマに沿って進行された。テーマは前期オープンディスカッションと同様、留学生がブックトークで読んだ小説の内容をもとに、「成長」に関連するテーマについて事前にいくつか設定した。各グループのテーマは以下の通りである。

グループ1.. 成長の基準はなんですか？ どのような人と関わりと自分も成長できると思いますか？

グループ2.. 「成長」という言葉を聞いて、何を思い出しませんか？ 今まで自分はどうのように成長してきましたか？ 大学に入って、自分のどこが成長しましたか？

グループ3.. 人間の成長は必要か——外国についての勉強や留学の目的は？ 友人はあなたの成長にどう影響していますか？

グループ4.. 今までで一番後悔したことは何ですか？ どうしても解決できない仲間や恋愛や成績などの悩みがありますか？

グループ5.. あなたはラゴス⁽¹⁾のように全てを置いて最後まで

で旅をする覚悟があるか？ あなたも何かをするために何かを犠牲にしたことがあるか？ 覚悟をしたことでどのような成長ができるか？

グループディスカッションの後は、全体のまとめとして、各グループのファシリテーターが話し合った内容を報告した。

〈グループ1〉

グループ1では「成長の基準」に関して、アルバイト先の経験を語ったことが報告された。そこでは客の評価によって制服につけるピンの数や種類が増えるのだという。この制度によって、「自分の成長が目に見えて分かるようになった」という話があった。また、「どのような人と関わりと自分も成長できるか」というテーマに関して、「文系と理系のように考え方が全く違う友達などと話をすることによって、自分も成長できる」という意見が挙げられていた。

〈グループ2〉

グループ2では自分たちの成長につながった体験を語り合った。その中で、特に高校から大学に入ると、生活が大きく変化することが取り上げられた。そこでは、「大学に入学し

て初めてアルバイトをした」「一人暮らしを始めた」「外語大に入って多国籍の様々なバックグラウンドを持った人たちと関わるようになった」など、高校生の時とは異なる環境で生活するようになった経験が語られた。さらに、これらの経験を通して、「今までより積極的になった」「社会と関わるようになった」「苦手な人とも付き合えるようになった」など、精神的な成長を感じるようになったというコメントも見られた。特に、「大学で、また留学をすることによって多国籍の人々と関わることで視野が広がった」という異文化交流による気づきが多く、学生に挙げられていた。

〈グループ3〉

グループ3では、「人間の成長」に焦点を当ててディスカッションが行われた。特に、近年A1の発達によって人間の職が少なくなっているという状況を踏まえ、「人間の職を守る」として作業の質を上げることのどちらが大切なのか、「どちらが成長につながるのか」という点について議論が進められた。ここでは、「実際、何が成長なのかを判断したり、実感することは困難だが、人間の仕事を確保することで成長したことを実感できるのではないか」などの意見が出された。また、友人の役割についても話し合われ、「自分にはない力を持っている人との相乗効果で、より大きな力を出すことができる」など、

自分とは異なる人と付き合うことが互いの成長につながることを指摘されていた。

〈グループ4〉

グループ4では「解決できない悩み」について話し合われた。特に対人関係の難しさについて、「対人関係の悩みは多くの人が直面する問題だが、そのような問題を体験することが成長につながる」という意見が挙げられた。そのほかにも、「勉強がうまくいかない」という悩みに関しては、「何がやりたいかわからないからではないか」という指摘があり、留学生からは「日本語のコンテストに向けて勉強を頑張った」「それがきっかけでその後も勉強を頑張った」という経験が語られた。また、「ネガティブ志向だ」という悩みに関しては、「ネガティブなことを考えないようにする」という意見がある一方、「逆にネガティブになっている問題についてより深く考えて解決法を見つけないべきである」という意見も挙げられた。これらの話し合いを通して、「何か問題や悩みに直面した時に、それと向き合って解決を目指すことが自分の成長につながる」という考えが示された。

〈グループ5〉

グループ5ではまず、「ラゴスのように旅をする覚悟がある

「留学生と語る」オープンディスカッション



ブックトークの様子(第2回)①



ブックトークの様子(第2回)②



ファシリテーターの学生を中心にしたグループディスカッションの様子(第2回)

か」というテーマについてディスカッションを行った。特に「覚悟をすることには不安が関係している」という点について、「留学への不安を解消するためには覚悟が必要だ」という意見が出された。続いて、「何かをするために何かを犠牲にしたことがあるか」というテーマについては、「留学をするために家族と一緒に生活を犠牲にした」という経験が多く語られた。また、「覚悟をしたことでどのような成長ができたか」というテーマに関しては、「家族など他の人に頼らず自分の力で

おわりに

物事を解決する力がついた」という気づきが挙げられていた。オープンディスカッションのうち、前半のブックトークを行った留学生は、日本の小説を原文である日本語で読み、その内容をまとめて発表をするという貴重な経験をする事ができただろう。この発表を通して、日本語そのものの能力だ

けでなく、日本語を使って実質的な活動を行う能力も養うことができたのではないだろうか。

参加した留学生、学部生はともに、「選択」「成長」という日常ではあまり触れることのないテーマについてディスカッションを行うことによつて、自分の考え方を整理することができたようである。自分以外の人の意見に触れることによつて自分の考えを変えたり、深めたりする機会になったと言えるだろう。特に、ディスカッションで話された経験や意見の中では、友人や家族の存在が重視されていた。また、異文化接触の経験が語られることも多く、学生は「選択」や「成長」には自分だけではなく他者が大きく関わっていると考えていることが窺える。今回のディスカッションで得た他者の意見は、今後の「選択」や「成長」をしていくうえで、学生たちの大きな糧になるだろう。

(1) 注

このグループの留学生は筒井康隆著『旅のラゴス』を読んで発表した。「ラゴス」とはこの小説の主人公である。